



神中だより

No. 5

令和8年9月30日 京都市立神川中学校

心を磨き、未来へと向かい、

自らやり抜く生徒の育成

～ 絆 ・ 夢 ・ 力 ～

Email : kamikawa-c@edu.kyoto.city.jp

10月予定

日	曜	予 定	日	曜	予 定
1	木		16	金	
2	金	1年合唱コンクール 英検	17	土	
3	土		18	日	
4	日		19	月	
5	月		20	火	体育祭予行
6	火	2, 3年合唱コンクール	21	水	
7	水		22	木	
8	木	全学年学習確認プログラム 非行防止教室(2年)	23	金	体育祭
9	金	進路懇談(~16日)	24	土	
10	土		25	日	
11	日		26	月	
12	月	スポーツの日	27	火	
13	火	部活動冬時間	28	水	
14	水		29	木	
15	木		30	金	
			31	土	

11月の主な予定

1日(月) 生徒会選挙

11日~13日 第3回定期テスト

13日(金) 地域一斉クリーン活動

「コーチの品格」

コーチ(coach)の語源は、乗り心地の良い四輪馬車で、革製品で有名なCOACHのロゴマークになっている、あの馬車です。そこから「人を目的地まで安全に運ぶ」という意味で、家庭教師や指導者をコーチと呼ぶようになり、現在に至るというわけです。

私たちの職業はteacherですが、teachとcoachには明確な違いがあります。ティーチングは知識や答えを教えること、コーチングは対話や質問を通して、相手から答えを導き出すことです。今の学校に求められているのはコーチングの手法で、昭和や平成とは授業の形が大きく変わっています。

教育における「指導」のあり方は、時代とともに大きく変わりつつあります。近年、スポーツ界で優れた実績を残すコーチの共通点として、「選手への過度な口出し（指示命令）を減らし、一人ひとりの個性や課題に合わせた個別のアプローチを行う」というスタイルが注目されています。この考え方は、学校教育の現場においても非常に重要です。

指示された通りに動くだけでは、目の前の課題をこなすことはできても、「なぜそうするのか」「次はどうすべきか」を自ら考える力は育ちません。教員が手取り足取り教えず、一歩引いて見守り、必要な時だけ問いかける（＝口出しを減らす）ことで、子どもたちは自分で答えを見つけ出す面白さや、試行錯誤する楽しさを学びます。

また、子どもたちの性格や理解のスピード、得意・不得得意は千差万別です。全員に同じ教え方を当てはめるのではなく、じっくり考えたい子には時間を保証し、視覚的なアプローチが得意な子には図や映像を活用するなど、一人ひとりのアプローチを変える「個別最適な学び」の視点が欠かせません。本校でも、「教えすぎない指導」と「個に応じた関わり」を意識し、子どもたちが自身が主役となって自立していける授業・学校生活づくりを進めているつもりですが、まだまだ道半ばです。

なんといっても、コーチングを生かした授業は、大人の我慢が必要です。また、不測の事態にも備えなければなりません。指導者が真剣に教材と向き合い、多方面から指導方法を検討し、試行錯誤を繰り返して完成します。今はまだ不十分と思われることもあろうかと存じますが、多くの教員が前向きに

取り組んでくれています。参観の時などに、その一端をご覧いただければと思います。

実りの多い十月に向けて、前進あるのみです。

夏に読んだ本のうちから、一冊紹介します。万城目 学著「八月の御所グラウンド」です。少年野球の時代を思い出しました。万城目さんは近畿地方を舞台にした小説を多く出されています。大学時代を過ごした京都を愛しておられるようですね。